

平成24年12月1日

砺波医師会誌

杏和だより

第198号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

[時評]	山下 泉	2
[活動報告]		3
高田 均先生を偲んで.....	伏木 弘	6
医者にむいていない? ~ぎふ清流国体富山県選手団本部帶同ドクターとして~		
	山田 泰士	7
[散居村] ·運命	永森 文夫	9
·少年サッカー	那須 渉	10
·30年一飲の夢	野島 俊二	11
·博物館めぐり	能登 隆元	14
·想定外の出来事	東出 慎治	15
·ボンド映画の魅力	広野 隆	16
·日々の診療から	福井 靖人	17
·中学時代の学徒動員	藤井 正成	18
·「メタボ」から「口コモ」へ	藤井 正則	21
·Rolling 60 デビュー	伏木 弘	22
[新入会員紹介]	市立砺波総合病院 古谷 陽一	24
	市立砺波総合病院 藤田 欣子	25
[編集後記]	網谷 茂樹	26

発行所 砧波市幸町6番4号

砧波医師会

発行人 砧波医師会長 金井正信

時評

あれから10年が過ぎました

桐沢医院 眼科

山 下 泉

河合元砺波医師会長から「県医師会の女性理事第一号にならないか?」という言葉を真に受けて、何の知識も経験もない私が「はい、やります」と応えたのは、まさに「無知の怖さ」「無知の愚かさ」でした。初めて県医師会の理事会に出席したとき、当時の故篠川医師会長から「初の女性理事の今後の活躍に大いに期待します、これから増えるであろう女性医師の支援に尽力して下さい。」と言われた事を今も忘れません。「女性医師の支援って何?」今までの自分の中になかった観念でした。その時、思った疑問は10年経った今もまだ、試行錯誤の状態で、よく分かりません。現在の県医師会執行部には私を含め女性理事が4人います。産婦人科、小児科、精神科、どれも今の医師会活動に欠かせない分野ばかりで活躍されている方々で、自分の知識や経験から積極的に活動をされています。私が思うに、女性の方が何事にも早さと勢いがあります。男女共同参画と言いながらも、家事や子育て、介護の負担はまだまだ女性の方が大きく、女性医師には時間が足りない、時間をかけるのはもったいないと言う思いが強く、ただ気ぜわしいだけなのかもしれません。しかし、彼女たちの頼もしい姿を見るにつけ、医師会活動が積極的でスピード感のあるものに変化してきたと感じます。これからも、いろいろな方面で自分の考えを持ち、それを言葉にして伝えることができる女性が増えて欲しいと願っています。時代が変わり県医師会にもドンドン若い風を入れるべきでしょう、新しい考え方や価値観を持ってこれから医師会活動を担うべきだと思います。私が県医師会に携わって一番得られたことは、物事を今後を見据えたグローバルな視点で考える必要性といつも新しい情報を得るように努力することです。

県医師会の砺波医療圏代表として、何も貢献できなかつたような申し訳ない思いがある一方、女性理事第一号として、後継者が出てくれたことで少しほお役に立てたかなという満足を感じる今日この頃です。

活動報告

(平成24年5月～平成24年10月まで)

／平成24年5月／

- 7日 市立砺波総合病院医局会との交流会
8日 富山県医師連盟執行委員会
　　男女共同参画委員会（県医）
18日 乳幼児・学校保健委員会（県医）
21日 第67回砺波胸部疾患検討会
22日 学術講演会
　　「心不全治療におけるトルバプタンの有効性と使用の工夫について」
　　独立行政法人国立病院機構金沢医療センター 臨床研究部長 阪上 学
25日 特定健康診査等事務説明会
28日 定例理事会
30日 砧波地域医療推進対策協議会

／平成24年6月／

- 4日 県・郡市医師会協議会
6日 監事会
8日 砧波准看護学院 研修旅行
　　管内精神医療保健福祉機関長等連絡会議
11日 定例理事会
　　県内医師会立看護学校連絡協議会（県医）
14日 広報委員会（県医）
18日 第68回砺波胸部疾患検討会
19日 医療従事者を対象とした化学療法に関する研修会
　　救急医療委員会（県医）
20日 地域医療・福祉を考える会「第3回代表者会議」
21日 市立砺波総合病院 肝臓病教室
22日 富山県砺波地域産業保健センター第1回運営協議会
25日 平成24年度第1回臨時総会
26日 学術講演会

「動脈硬化性疾患予防のための包括的リスク管理」

京都大学医学部附属病院 探索医療センター探索医療臨床部

助教 南 学

27日 砺波地域MC部会

28日 平成24年度砺波市訪問看護事業運営委員会

第184回富山県医師会定例代議員会・第68回定例総会

／平成24年7月／

3日 富山県地域産業保健センター運営協議会

6日 砺波市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会

介護保険委員会（県医）

9日 定例理事会

11日 平成24年度在宅医療連携拠点事業説明会

19日 地域医療連携の会 砺波地区オープンカンファレンス

23日 第69回砺波胸部疾患検討会

24日 富山県糖尿病対策推進会議

26日 平成24年度糖尿病対策推進強化事業連絡会議

認知症疾患医療連携セミナー

28日 第8回男女共同参画フォーラム

31日 砺波厚生センター地域・職域連携推進協議会

／平成24年8月／

6日 定例（移動）理事会

7日 富山県医師連盟常任執行委員会

9日 砺波地域医療推進対策協議会 急性心筋梗塞作業部会

21日 在宅医療連携打ち合わせ会

22日 平成24年度砺波市要保護児童対策地域協議会代表者会議

23日 市立砺波総合病院 肝臓病教室

30日 砺波市防災会議

31日 富山県医師連盟執行委員会

/ 平成24年9月 /

- 6日 平成24年度砺波圏域地域リハビリテーション連絡協議会
- 10日 定例理事会
- 11日 砺波地域医療推進対策協議会 がん作業部会
- 23日 市立砺波総合病院 緩和ケア研修会
- 24日 第70回砺波胸部疾患検討会
- 25日 学術講演会
「漢方からKampoへ～現代医療の中の漢方治療～」
谷川醫院 院長 谷川 聖明
- 砺波地域医療推進対策協議会 糖尿病作業部会
- 27日 特例民法法人実地検査
砺波地域医療推進対策協議会 救急・災害作業部会
- 工場見学 三協立山株 三協アルミ社 福野工場
- 30日 市立砺波総合病院 緩和ケア研修会

/ 平成24年10月 /

- 3日 砺波市障害者虐待防止ネットワーク運営委員会
- 4日 砺波准看護学院戴帽式
広報委員会
- 9日 定例理事会
平成24年度砺波厚生センター運営協議会
- 14日 市民公開講座
「認知症の予防と治療・ケア
～日常でできることは？どんな検査やお薬があるの？～」
富山赤十字病院 高令心療科部長 殿谷 康博
- 15日 第71回砺波胸部疾患検討会
- 18日 市立砺波総合病院 肝臓病教室
- 23日 学術講演会
「骨粗鬆症治療薬の特徴とその使い分け」
金沢大学大学院医薬保健学総合研究科地域医療救急・整形外科学講座
特任教授 山本 憲男

高田 均先生を偲んで

砺波医師会 理事
伏木 弘

先生とは中学時代に知り合い、中学二年生の時は同じクラスでありました。第一印象は非常におとなしく悪ふざけすることもなく、どちらかというとあまり目立たない方がありました。しかし、足が非常に早くて運動会などではクラスの期待の星でした。私とは、中学卒業以来接点はほとんどありませんでしたが、医師になって大学での勤務している間に、あるメーカーの方から「先生の昔の同級生の高田先生が第二内科に入局されましたよ」と聞き、初めて高田 均先生がお父様の後について医師になられた事を知りました。

私も色々回り道をして医師になったのですが、高田君も他の大学で医学以外の事も学び、そしてやっぱりお父様の後を継がれる決心をされ医師になられたのだと思いました。大学勤務時代に2度ほど一緒に食事に行きましたが、中学時代とは全く別人のように外見も性格も変わっており、非常に活発で精悍な感じに見受けました。私が、砺波総合病院に就職してから間もなく高田医院をついで開業されましたが、砺波でも私ども同級生と何度か会食やカラオケに行きました。とても明るくてカラオケも非常に上手で、自動車や観葉樹などのも詳しく多趣味でした。私が高田先生の病気のことを知ったのは非常に遅く、私の義父がなくなる少し前ぐらいでした。私は、それまで詳しい病状も知らずに飲み会に頻繁に誘ったりしており、先生には断られたことは一度もありませんでした。病状が進行して外出がままならないことを義父の葬儀で知りました。私に電話で「葬儀に行きたいが出れないで父に代理でもらう」ことを伝えてくれました。しかしその時はほとんど聞き取れないくらいの言葉になっておりました。この難病の中で電話をしてくれたことに非常に感謝しております。

このたび残念ながら旅立たれましたが、葬儀で奥様の病状経過を聞き、非常に息づまる思いでした。高田先生もまだやりたいことがいっぱいあったと思います。本当に残念でたまりません。しかし、今はゆっくり休んでご家族を見守っていてくれていると思います。ご冥福をお祈りします。

医者にむいていない？

～ぎふ清流国体富山県選手団本部帶同ドクターとして～

市立砺波総合病院 整形外科
山 田 泰 士

「適正などない。なれば、合ってくるもの。なりたいものを目指したらよい。」私が中学時代の恩師が話をしてくれたことを思い出す。人それぞれが自らを活かすところがあるはずである。自分の居場所は、適正で決まるとは限らない。

「今年もお願いできますか？」と富山県体育協会から電話をいただいたのが8月のことだった。ぎふ清流国体の富山県選手団本部帶同ドクターに選んでいただいたのである。

帶同ドクターの業務は、けがをした選手の対応、ドーピングに関する相談などだが、最大のミッションは富山県選手団の激励である。今回の国体帶同での一場面を紹介したい。

ウエイトリフティング会場に行き、競技前の選手に会う。「今日は手が折れても、足がつってもいい。先生を連れて來たぞ。」と同行している富山県体育協会の役員の方が私を紹介してくれる。昨年の国体（山口国体）でも会ったことがある押田真選手は、「ありがとうございます。がんばります。」と昨年同様にすごくきれいな目で私を見る。

「中学生のときに発掘された選手です。」と昨年教えていただいた。ウエイトリフティングは、手足が短い選手の方がレバーアームの関係で力学的に有利である。それは、選手の能力というより、持ち合わせる特性である。中学生のときには、別のスポーツをしていたが、高校進学の際に「日本一をめざそう」とスカウトされたそうだ。確かに手足が短い。

押田選手の出番が来た。応援にも適正があるのかもしれないが、そんなことは気にせず、私は声援を送る。押田選手の表情が硬い。プレッシャーをかけてしまったのかもしれない。結果は4位入賞だった。

続く、クリーン＆ジャーク、押田選手の得意種目である。3回の試技をするが、多くの選手が3回の試技を終える。押田選手は、なかなか出てこない。重量があがり、ライバルの選手との一騎打ちとなる。まずは、ライバル選手が115kgを成功する。押田選手は118kgにトライするも失敗する。ライバル選手は、118kgを成功する。押田選手は、2回目で118kgに成功する。このままいけば体重がわずかに軽い押田選手の勝ちである。

ライバル選手は3回目に120kgを成功する。押田選手は3回目に120kgを成功すれば勝て

る。しかし、監督のコールは121kgである。体重差で勝利するという守りの戦術ではなく、攻めの気持ちを持たせるための作戦だったと競技終了後に教えてくれた。

押田選手が出て来た。今度は顔つきが違う。そして、監督さんの指示である121kgを見事にあげて見せてくれる。その瞬間、歓声をあげて喜ぶ私たちの方をむいてガッツポーズをして笑う。監督さんも私たちの方へ手をあげてくれる。二人にとっては、約束の日本一の瞬間である。私は感動して涙した。競技後、押田選手に会いに行き、握手をしてツーショット写真を撮らせてもらった。

押田選手は、ウエイトリフティングの適正があったのかもしれないが、それだけではない。多くの努力や苦労があったから、適正を活かすことができ日本一になれたのである。今後、大学に進学され、オリンピックを目指すとのことで、ますますの活躍を期待している。

私は今でも「医者にむいていない。」と思うことがある。それは、私に医者としての適正がないからかな。そうではない。押田選手のような努力や苦労が足らないだけだな。

(なお、この文章は私のブログ「いきよくのマネージャーのブログ」(<http://ameblo.jp/tonamiikyoku>) で、10月6日に書いたものを一部改変したものです。)



運 命

永 森 文 夫

運命というものは、どんな人にもついて廻るもの、嬉しいものもあるし悲しいものもある。似たような言葉で宿命といいうものもある。しかしこれは運命よりも暗い印象を与える。どちらも、ちょっとやそっとで動かないように思える。喜んで迎えられる宿命もあれば、悲しい想いで自分の体に受けとめざるを得ない宿命もある。どんな人間にもこの両者は出たり入ったりしているようだ。

私がよく知っているある山村の話だが、あした百才になるというお婆ちゃんが病氣で倒れて何時亡くなるか分からぬ状態であった。親戚や近所の人達が婆ちゃんの家に入って来て「あした百になるがやぞ、頑張れ、頑張れ…」と励ましたそうだ。しかし人間の寿命は、どんなに力づけても伸びたりするものではないようだ。この場合は運命か宿命か、私は運命でないかなと思う。いろいろ理屈をこね廻すより、人間が九十九才の最後の日まで生ききたということは、よう頑張ったね、ごくろうさまでしたと言いたいからである。

運命に関する言葉は割合にある。先づ「開運」である。今まであまりパッとしない生涯を送って来たが、なにかのことがキッカケで運が向いて来た。そのようなことがあるだろうと吾々は想像できる。反対に「不運」という言葉もある。

こんな言葉探しをやっていてもきりがないので別のテーマに移ることにする。

運命という言葉を聞くと、私どもはすぐに幸福という言葉が反射的に脳内に浮かんでくる。それでは、あなたは幸せかと問われれば、幸せとは言えないと答えるだろう。毎日、毎日、文句も言わずに仕事をしているのは、幸福を求めてやっているのだと周りの人達が考える。しかし当人はそんな考えは全く無く、与えられているからするのだ、それだけだと答えるだろう。私どもは外部から邪魔が入ることもなく健康で懸命に仕事が出来ることが幸せなのだ。

宝くじで一億円当てた人はどんなに嬉しいか、私は宝くじを買ったこともないので論外だが、その嬉しさは想像できないほどのものだろう。とび上がるほどの嬉しさという言葉があるが、嬉しくてとび上がった人を見たことがない。多分そんな経験を持った人が非常に少いと考えた方が合っているのだろうと考える。

柄にもなく難しい言葉を題材にしたので、幼稚な文章になってしまった。謹んでお詫び申し上げる。

少年サッカー

なす整形外科クリニック
那須渉

2年前の春に、当時4年生の長男と2年生の次男が「F Cとなみ」という少年サッカーチームに入団しました。長男は2年生や3年生の頃にもサッカーチームに入りたいと言っていましたが、スポ少活動は親が大変だというイメージがあったため、無理だといって我慢させてきました。しかし、次男がどうしてもやりたいと1年生の頃から言っていたため、2年生になっておそるおそる入団させてみました。

入団させてすぐの頃、練習を見に行くと、次男は低学年の中ですぐになじんで生き生きと練習していました。しかし、長男の方は4～5年生の中で今までやっていた子たちとの差は歴然としており、もともと走ることが苦手だったこともあって、これはかわいそうなことをしたなあ、もっと早くから入れてあげたらよかったなあと後悔しました。

それからです。木曜・土曜の午後や日曜はなるべく長男と次男を連れて近くの公園に行き、ボールを蹴ったり走ったりするようになりました。これは、少しでも早く長男を周りの子についていけるようにさせたいという一念で始めたことですが、自分の運動不足解消にもなり一石二鳥でした。こうやって子供と一緒にボールを蹴ったり走ったりできるのは、小学校を卒業するまでかもしれないなあと思い、次男が卒業するまでは、こうやって一緒に自主トレ（我が家ではこの運動をそう呼んでいます）しようと思っています。というわけで、週末のゴルフは半引退状態となり、どっぷり少年サッカーにつかって生活を送っています。最近では、小学校のグラウンドで練習しているので、見かけた学校の先生から

も「そういえば今日は木曜でしたね」と言われるほど恒例化しています。

おそるおそる入団させた少年サッカーですが、他の父母たちとも仲良くさせてもらい、普段の生活では決して交わるようなことがなかった方々とも親しくなることができ、親としてもよかったですなあと思います。この年にして、友達の輪が広がった感じです。子供たちとスポ少活動に感謝しています。

そんな感じの生活があと2年半は続く予定ですので、付き合いが悪いなあと思われることもあるかもしれません、どうかお許し下さい。

でも、下の娘たち（現在、1年生と年中さん）が入団すると言いだしたら、どうしましょうかね～。
それも、うれしい悲鳴かも…。



30年一飲の夢

市立砺波総合病院 産婦人科

野 島 俊 二

世の中の人は「行く派」「行かない派」にまるっきり分かれるというものの一つに「同窓会」が挙げられる。高知の人間はお国のために一仕事するには一度離れた故郷には戻らないものとされている。幕末では坂本龍馬、岩崎弥太郎しかり、高知ゆかりといえば吉田茂やカシオ計算機創始者の櫻尾忠雄氏、西川きよしや横山やすし、間寛平もいる。彼らは一様に地元の人から、「一度土佐を出ていったらいいんでこん」と思われている。それに、高知には、土佐の“いごっそ”という概念があり、人と群れて安住するのを潔いとしない風潮も手伝って、遠方に住んでいるのをいいことに幹事も回ってこないし、出不精も手伝い一度も行ったことがなかった。

高校を卒業してから、毎年1月3日に行われる部活の新年会には何度か顔は出していた。

母校バスケ部、硬式庭球部、野球部は何故か昔から同じホテル宴会場の隣合わせでやっている。だから、仲良かった奴らとはほとんど毎年顔を会わせていた。それで良いと思っていた。

しかし、今年は違った。昨年8月初めに一枚の案内状がいつものように自宅に届いた。いつもならそのままゴミ箱行きになる予定だった一葉の紙切れ。冷房を控えての毎日、扇風機の風に当たっていたのがそれを思いとどまらせた。高知のくそ暑い夏の日々を思い出させたのかもしれない。

東日本大震災が心のどこかに引っかかって、30年ぶり…一度会っておかないと今生の別れになる者もいるかもしれないと思ってしまった。終戦記念日の日に出席にマルをつけ投函した。

日常でも白衣でもいつも胸ポケットに入れている、某製薬会社のワインレッドの手帳2011年版13枚目2行目に「57回生同窓会」と記した。

手帳に記すと頭の中から消えるのだが、このしるしだけは毎月ページが変わる度に確かめていた。うちの科では2ヶ月おきに当番表を作成する。12月と1月分は11月最終週に決めないといけない。

自分のスケジュールはなるだけ後廻しにしているのだが、今回だけは残りの3人には無理を言ってしまった。大晦日から三が日まで休暇を取り、高知の実家へ帰った。

当日は、中学時代から通学で乗っていた路面電車に揺られ、高知城下にあるホテルへ向かった。会場ロビーでは、もう既に女の子？たちが幾つかたまって立ち話が始まっていた。3階に上がると受付は高3ホーム別で、かつて各クラスの美人と言われていた子たちが受付をしていた。

予想をはるかに超えて、100人以上集まったようで、あちらこちらに話の輪が出来た。母校はほぼ中学校から6年間同じメンバーなので会場に集まった全員の顔と名前は自然に一致した。運動会での武勇伝や教師に怒られた話、こんなときの定番の話が次々と出てくる。オチはほとんど皆知っているのだが、登場人物が直接話すので古典落語を何度も聴くかのように実に面白い。一方、現在の仕事や家庭の話は面白いと言えるまでには至らなかつた。かつてインターハイにも出たハンドボール名キーパー、現在は県庁秘書課課長なんてやつが寄ってきた。何人かいる県外在住の公立病院勤務の医師たちを見つけては名刺を配つて盛んに話しかけていた。

同窓会での話題には、一に昔話、二に笑い話、三に夢物語がいいのかなあ。結構きつい

毎日を送っている奴もいたからなあ。小学校から知っていた、卒業時同じクラスだった子は子宮頸癌で亡くなっていた。賢くて綺麗な子だったなあ、最期は小学校の先生をしていた。真夏の昼下がり自宅縁側で錯乱した近所の男に刺され絶命した友人もいた。やっと入った医学部二年生の夏休み中だった。他にも鬼籍に入った友人が数人いたようだ。

話も尽きぬ間に3時間で一次会は終わり、記念撮影と相成った。予定人員を大幅に越したため写真枠ギリギリで、後で送ってきた写真は名前が分かる程度だが一人ひとりの顔の細部までよくわからない。それで良かったのかもしれない。

地元に住む友人たちはおそらく4次会、5次会あたりまで行くのだろう。3日朝には高知を発つ予定であり、二次会に行く友人たちとは別れた。高知の冬に雪はほとんど降らない。それでも一月二月には寒風は吹き、夜ともなれば北陸並に気温は低い。一夜の夢と酒で火照った頭には丁度よかったです。電車通りを二駅分歩き、正月のイルミネーションが映える中央公園を横切って、はりまや橋電停から赤い看板の最終電車に乗った。30年ぶりの同窓会は瞬く間に過ぎていった。

不思議なことに会場での記憶があいまいだった。同窓会前日まではよく覚えているのだから、きっと飲み過ぎたのだろう。ただ、同級生たちの眉毛から首まで辺りが、それ以外の部分と異なって昔と同じ。そんな他愛ない記憶だけが残っていた。

記念撮影を終えて帰る時には、仲間うちのあいさつだった「ほな、バイぞ！」と言だけ、30年前と同じだ。別に次に会う約束もしなかった。集った皆はまだまだ青春を謳歌しているのだ。この席に居なかった友人たちも、きっと同じ気持ちなのだろう。

— 邱鄼の夢、土佐の高知の一飲の夢。



博物館めぐり

福光あおい病院

能登 隆元

今年は博物館めぐりの年となりそうです。

関東方面への小旅行といえば、舞浜のテーマパークが多かったところですが、今回は先に TDR に向かった妻子に合流した後、都内をまわることとなりました。東京の名所といえば、今年はスカイツリー界隈は外せないところでしょうが、へそ曲がりのためか、遠方から眺めただけで済ませてしまいました。

さて、2人の息子達が行きたがったのは、上野界隈（動物園、博物館）でした。上野動物園といえば、パンダの赤ちゃんの話題がありましたが、不幸な事件の後だったためか、さほどの混み具合ではありませんでした。北陸の動物園で見ることができないホッキョクグマ、オカピ、ゾウガメ等がおり、大人でも楽しめました。

上野の博物館で、長男が選んだのは国立科学博物館でした。教科書に載っている写真に、この博物館の所蔵品が多かったためかもしれません。近場で「ツタンカーメン展」をやっているのには目もくれず、炎天下の上野公園を、一目散に科学博物館に向かう子供達の多いこと・・・夏休みの自由研究のネタ探しを涼しい環境でできると考えれば理解ができます。館内は「地球館」と「日本館」に分けられます。大人が楽しめたのは、地球館3F一面に広がっている動物達の剥製でした。アメリカの富豪のコレクションを譲り受けたものらしいですが、個体数の多さと見せ方のうまさに、博物館であることを忘れて引き込まれました。子供達が楽しんだのは、「日本館」の歴史コーナーや地球館の恐竜フロアでした。かつて南極に置き去りにされた樺太犬：ジロ、忠犬ハチ公の剥製も興味深く感じました。かなり秀逸な展示物が多かったため、次回こそはジックリ見たいと思いました。

東京の博物館より帰宅後、次男が急に恐竜に興味を持ち始めたようです。福井県の勝山には、日本最大の「恐竜博物館」があると聞きました。積雪が多くなる前に、息子達と勉強に行ってくるのも良いかと考えています。

想定外の出来事

ひがしでクリニック

東 出 慎 治

杏和だよりの原稿締め切りが近づき、どうしようか迷っていたところ、有り得ないような出来事が相次いで起こり、タイトルが決まりました。

1件目は火曜日の午前10時30分頃、腰痛で通院していた82歳の男性が胸痛を訴えて来院、待合室に倒れこんだ。直ちに処置室に運んだがものの1分もしないうちに意識消失し呼吸停止、脈拍も触知しない状態となった。直ちに救急車を要請したが、先日日本脳炎ワクチンで死亡したニュースがあったばかりで挿管の準備は整えてあったので比較的スムーズに挿管、心マも行ったが静脈確保する余裕はなかった。5分くらいで救急隊が到着したが簡易モニター上、徐脈ではあったがV Tなどではなかった。総合病院に搬送したが結局は救命できなかった。医師1人、看護師1人（助手は戦力とならず）では想定外の事態には十分対応できずつくづく無力と感じました。患者さんは当院に通院するために乗用車を運転中に発作に襲われたようですが、きちんと駐車してあったのが印象的でした。

2件目はその2日後の午後に起こりました。3時頃駐車場の方向に大きな衝突音が聞こえ“派手にぶつかったか”と思い窓を開けると道路から直角に医院のフェンスをなぎ倒し駐車場の軽自動車に衝突、角度をさらに直角にかえて医院の建物にぶつかり止まっています。またしても救急車を要請しましたが運転手は大丈夫のようでした。しかし1分もしないうちにスタッフの“先生、大変です”と叫ぶ声が聞こえ、ぶつかった方を見ると車は予備トイレの壁を破壊して水道管がはずれ水が噴水のように流れ出し、見る見るうちに院内各所に広がっていました。それを見たときは唖然としてどうしていいかわからず、しばらくしてようやく外の水道栓の元を閉めて水を止めましたが、かなり浸水しました。水は手作業ではらちがあかず、業者さんに連絡して専用掃除機で吸い取ってもらい2時間くらいで診療は可能となりました。事故の原因はわき見とブレーキ・アクセルの間違いました。

この2つのケースで日頃からの危機管理の意識が必要と思いましたが、想定外のことを事前に意識・対策しておくことは容易ではありません。診療所は退屈でも静かな日々が一番だと思いました。

ボンド映画の魅力

高波診療所

広野 隆

去る10月5日読売新聞の広告欄を開いて思わず目を瞠った。2頁に渡って英國映画007シリーズの特集が組まれていた。シリーズの第1作が公開されてから丁度50周年になる今年、10月5日を「ジェームス・ボンドの日」と銘打って世界各地で多彩なイベントが開催されたとの事である。記念作品としてダニエル・クレイグが6代目のボンドに扮する第23作「スカイフォール」が来る12月1日に日本でも公開されるそうである。流行り廃りの激しい映画界ではシリーズものは回を重ねるうちにマンネリ化して失速するのが常だが、007はこの法則に全くあてはまらない。東西冷戦時代から21世紀の今に至る迄魅力を保ち続け一作毎に新たなファンを獲得している。先のロンドンオリンピックの開会式ではそのダニエル・クレイグがエリザベス女王のエスコート役を努めた事も英國が007を世界に誇るブランドと認めているに外ならない。

何故に世界中がかくもボンド映画に沸くのか、それは半世紀をかけて磨き上げた独得のスタイルにある。各作品の冒頭には必ず度肝を抜くアクション場面があり、続いて大物歌手を起用した主題歌をバックに芸術的な迄に官能的なメインタイトルが映し出される。そして英國情報部の密命を帯びたボンドの世界を股にかけた大冒険が展開する。途中必密兵器調達係のミスターQがボンドに支給するアストンマーチン車を始めとする諸々の奇想天外なスパイアイテムはあらゆる大人達を童心に帰らせ、ボンドが任務の合間に眩しいばかりの美女と織りなすアバンチュールも観る者の胸をときめかしてやまない。所詮は大人用の漫画であるが、しばし空想の世界に遊ぶのも悪くなからう。或る人が歴代のボンド役の中で初代のショーン・コネリーがいささか泥臭いが原作のイメージに一番ぴったりはまっている、丁度座頭市を演じた勝新太郎のように、と云っていたが、同感である。

日々の診療から

砺波サナトリウム福井病院

福 井 靖 人

最近、日々の診療で感じていることは、統合失調症（精神分裂病）の方がめっきり少なくなってしまったことです。私が研修医だった頃には毎週のように新規の入院者がおられたものでしたが…。これは当院だけに限ったことではないようです。インターネットで検索してみましたが、今のところなるほどと思える要因は見つけられませんでした。今後じっくり調べてみたいと思っております。

それに代わってポツポツとではありますが、登場するようになって来たのが発達障害の方たちです。子どもを専門とする精神科医が診るもので、私が関わることはないだろうと思っていたのですが、どうもそうとばかりは言えなくなっていました。例えば、職場では自己流を通し融通性に欠けると見られていましたが、責任感からとった行動を強く制止されたことから自傷行為に至り事例化した男性。正義感が強いゆえ曲がったことが許せず、円滑な人間関係を営むことに困難を感じて来院した女性など、いずれも成人例です。今年出会ったひとりは、“ひとり言を治したい”と受診された30代後半の男性でした。話を伺うと人の気持ちを汲むとか思いやるということがわからない。指示されても自分なりのことだわりが邪魔をしたり、指示が頭に入らなかったりしてその通りできない。このためこれまで頻回に転職してきたと言います。また、小学校の低学年の頃には、じっとすわっていられなかったり、気にいらないと授業をボイコットしてしまったりしたそうです。発達障害と思われると伝えましたが、もっとはつきりとした病名が知りたいと希望されるため、専門医で診てもらったところADHD（注意欠陥多動性障害）と診断されました。その後再び当院でひとり言に対する治療や対人関係についての助言を行っています。これからきちんと診断できるよう勉強に勤めなければと思っているところです。

中学時代の学徒動員

藤井整形外科医院

藤井正成

昭和17年砺中入学、18年2年生の時から出征兵士留守家族の稻刈り、12月に入り囊降る井口村の暗渠排水作業、19年伏木港にて石炭荷役1週間石炭にて真黒になるも入浴なし、7月四方飛行場構築作業1ヶ月間、この作業はひどかった。寺の御堂に150名蚊帳の中に6名づつ寝る。前庭に穴を掘りバラック造りのトイレを作り使用する。作業小屋で三食する。飯の盛りきり一杯、汁一杯のみ、空腹甚しく途中から各家庭に連絡して母親が炒大豆を持って慰問に来る。小生五ヶ山のため差し入れなし、空腹甚だし、昼食は汁を先に飲んでバケツに余っている汁を真先にとりに行く。2日目位からバケツの傍の者が先にとった。四方の海岸道路の内側が大変広い砂場で連日晴天の中、トロッコとスコップで砂を運び砂場を整理して芝生植え滑走路を造る。陸軍の練習機赤トンボが着陸して飛行したら芝生は風圧で飛び立って後の祭りであった。何の為の滑走路かあほらしくなった。生水は飲めず木箱に石と砂を入れて水を注ぎ漉した水を煮沸してから飲料水とした。アメリカは南方の島を占領してブルでならし鉄板を敷しいて1週間で飛行場を造ったと聞いた。之だけでも勝利はない筈であった。

3月2学期から中越航空に動員された。鉄筋コンクリートの部屋で小型施盤を使っての作業中、突然施盤がゆれた。びっくりして皆通路にとび出した。これが名古屋の大地震だと翌日になって解った。間もなく横浜から石川島航空が機械と長野からの徴用者、その他多数の工員が疎開してきた。海軍の零戦戦斗機の製造が始まった。井波の呉羽紡は陸軍の隼戦斗機、福野は海軍の呑海爆撃機の製造であった。先づ最初に別工場で全國から供出された小さな梵鐘を萬力で固定し鑿をハンマーで叩き小振り、中振り、大振りと進んで梵鐘を平滑にけずり、鑿をかけて平滑にして、ニュートンリングが出来た者から現場に入って作業についた。この作業が大変でハンマーで左母指を叩くのでなれる迄苦労した。現場では神風と印刷した手拭を頭にまいて、昼12時間、夜12時間の労働で連続して1週間で昼夜交代した。今思へば語るも涙、するも涙であった。さて、その作業は零戦のピストン（第1工場）と附駒案内と云う部品造りで横浜からの熟練工について施盤で荒けずり、ボーリング孔あけ、ミーリングで平滑にして螺旋切りをして熱処理に送り、部品を硬くして研磨

に廻し製品となり検査に送った。3/100mmまでが合格で4/100mm以上の誤差が出ると不合格で「オシャカ」と云った。オシャカは切屑と一所にして34貫に圧搾して昭和電工に送って製品として再利用した。

夜勤の時、ボーリングについていたB君が泣いてきた。「どうした」「田舎の中学校の先生が英語を勉強していたら赤尾の参考書をとりあげた」と云う。米英鬼畜で砾中では英語など禁止中であった。勿論、横文字のスポーツ（運動）はすべて禁止であった（ベースボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー等々）次の日先生が巡回中にこっそりと教員室入ったら参考書があったので、とってきてB君にわたした。小生に感謝感激と喜んだ。東京では戦中でも英語の勉強をしていたと云う。B君は7つ上りであったので薬専に4卒で合格し、卒業時19才であったので国家試験（第1回）に合格したが薬剤師の免許状は1年遅れて20才になった時点でもらったという。こんなのなら1年遊んでいればよかつたと云っていた。夜勤の時は11時30分になると空襲警報となり急いで防空壕に入った。しかし、爆弾が落ちればこの壕では全員死亡すると思ったので壕に入らずB29をずっと眺めていた。その結果か戦後金大眼科が砾中に来て全員の眼の検査をした時、小生と山下君が視力2.0となっていて暗室に入り再検査された。入学時1.0のものが2.0となっていたので遠距離をずっと眺めていると視力がよくなると思った。空襲解除となり12時過ぎから昼食をとり、食後中庭で中田准尉がリヤカーを動かして米戦車としてこれに枕程の木片をかかえて匍匐して戦車にぶつかる練習を毎日くりかえして行った。その頃は国のために来たらやつけてやろうと一所懸命に訓練した。今思へば中近東のテロと全く同じであり教育とは恐しいものである。後一年戦争していたら僕等は完全に自爆していただろう。

食事は米飯と大麦大豆の混ぜ合わせでその上にビー玉程の馬鈴薯5ヶが臭いベーカライト製腕に盛りきりで甘藷蔓（3cm位）の塩汁と漬物2切でその内に満州からの赤い高粱が飯の中に入ってきた。高粱は消化せずにそのまま出てきたので川に行って糞をこして高粱を持ってきてもう一度炊いて食べろと云われた。その頃毎日のように新聞に大和民族の男子は抹殺すると書いていた。又、海軍中将久邇宮殿下の視察があるので、数日前から憲兵伍長2人が来て不敬にあたらないように監視し、通路に60cm幅に砂を敷いて歩道を作り、之を踏んだらビンタを加えた。前日には仕事を休んで天井裏から工場全体の大掃除を行い、当日は白髪のカイゼル髪の上田謙吉陸軍大将が先導して義足の殿下が作業中の工場内を進んで行った。その間頭を持ち上げては駄目と憲兵から云っていたが、通り過ぎた時に上目使いでそっと見た跛行して歩く殿下の後姿であった。昭和19年から20年にかけて大変な

大雪であり、自転車通勤は不可能となって、小生を含め10名程が線路脇の寺を借りて御堂で宿泊していたが破れた障子戸から雪が吹き込んで大変な寒さであった。暖房もない時代だったので砂田先生が見かねて先生宅の階の座敷2部屋を開放して油くさい私達を春迄宿泊させて戴いた。夜は奥様が毎食雑炊を作つて有り難く食べた。砂田先生は神様佛様であった。会社から支給された上着は油だらけで1年間着通して虱がわいた者もいた。よく栄養失調にならなかつたものであるが、長野から来た20才の青年は現場で大量の喀血を吐いて死亡した。又、突然砾中の戦斗帽をかぶつた者が入つて来た「誰だ」と一喝したら「山田です東京第11中から転校してきた者です」「そうか」と云うと出て行つた。後日改めて聞くと東京では中学生に大型自動車の免許をとらせたそうで彼は出町駅から工場の間をトラックを運転して横浜からの大量の機械を運んでいたと云う。そんな関係で彼を知つてゐるものは小生しかいなかつた。10数年前夫婦で高山旅行に來た時に五ヶ山に藤井と云うのがいるがそれはどこかと砺波の小生宅に電話してきた。それは僕のことだと云うと再びびっくりしたと云う縁でクラス会に招待したら喜んで出席してくれた。彼は砾中でも府立11中でも卒業証書を貰つていないと云うが、慶應を卒業したと云う。戦争中砂田先生からの品物を山田君に届けてくれと云われて井波の別院にいる彼の所へ届けたら母が大層喜んで、その後死するまで藤井によろしく云つてくれと云つてゐたそうである。8月14日墓参のため休みを貰ひ帰省し、15日午前中庄川で泳いでいて小学校の方に行つたら島田先生が泣いていた。「先生どうしたの」というと「日本負けた」と云う。びっくりしたと同時に大和民族男子抹殺かと思った。翌16日急いで工場に行つたら誰もおらず「ものけのから」であった。戦後、北海道はロシヤ、本州はアメリカ、九州は中國、四國は英國とオーストラリヤが支配すると云う噂がとんでいたがマッカーサー元帥が反対して実施されなかつたと云う。アメリカ様々であった。

戦争中、松岡洋右外務大臣とロシヤのモロトフ外相がモスクワで「日ソ不可侵条約」を結んでいたが、ドイツが陥落したらロシヤは条約を破りヨーロッパから大量の戦車と軍隊がソ満国境に集結し入国15日終戦の1週間前に満州に総攻撃をかけて満州を占領してあつた。日本兵、開拓団の男子等約50万人がシベリヤに送られ厳寒の中強制労働に従事し約10数万人が死亡した。更にロシヤは終戦後8月20日頃に北方四島に攻撃をかけ占領して現在に至つてゐる。甚だ残念無念である。

10年程前友人と鹿児島県の知覧飛行場に見学に行った時（特攻隊の出撃地であったので）零戦の惨害が陳列してあった（海からあげたもの）ので、もしかして小生が造つた飛行機

ではないかと思うと涙の洪水であった。

戦争をしかけたのは日本であったが、戦後アメリカは日本を援助してくれた。

アメリカ様々である。

「メタボ」から「ロコモ」へ

藤井整形外科医院

藤 井 正 則

将来の老後を楽に過ごせる様にと思い、「貯金」ではなく「貯筋」に精を出しています。1回10~20分を目安に一連の運動を朝晩2回行っています。

この発端は県医師会での研修会。ダンベル体操創始者鈴木正成先生の「目から鱗の理論」を聴講した事に始まります。その頃の自分は、医局員時代とは正反対の全く動かない生活が祟り、あっという間の5kg増。70kg突入かという瀬戸際状態でした。ところが、このダンベル体操を半信半疑で始めるや否や、鈴木先生曰く「坂道を転げ落ちるが如く」の10kg減に成功。体型がL寸強からジャストM寸になり、このダンベル体操の怒濤の威力に関心した事が、恒常的に運動するきっかけになったのです。

巷では「ビリーのブートキャンプ」に始まり、美木良介「ロングプレス」、中村格子「大人のラジオ体操」が話題となっていますが、筋肉の質を更に高めるべく自分で考案した体操を日々改良しながらの試行錯誤が続いているです。

それでは現在の運動メニューを紹介します。

- 1) 足掻げ腹筋 50~100回
- 2) ゆっくりスクワット 10回
- 3) 大腿内転筋群のゆっくりストレッチ 10回
- 4) つまさき立ち 30回
- 5) 肩甲骨のゆっくり前拳運動 30回
- 6) 大腿四頭筋訓練 50回

- 7) 柔道内股、大外刈 左右30回
- 8) 腕立て伏せ（机式）50回
- 9) 背伸状態からゆっくり左右ストレッチ 10回

You tube に投稿してみようかとも考える今日この頃です。



Rolling 60 デビュー

伏木医院

伏木 弘

最近の私は、「Rolling 60」というおじさんバンドにはまっています。以前にも書きましたがこのバンドのメンバーは5人ですべて出町中学校22回卒業生の集まりです。4年前に同窓生で結成したバンドです。すべて職種の異なったものの集まりです。ほとんど素人の者ばかりで結成した私たちのバンドはアマチュアバンド以前のバンドです。私は、リードギターとボーカルを担当しております。他のメンバーは、ドラム、サイドギター、ベースギター、キーボードでみんなでサブボーカルをしています。初めはベンジャーズや加山雄三の真似事をしておりましたが、このジャンルは非常に上手な方が多いため、メンバーの一人が、自分たちだけで演奏できてボーカルも自前がいいと言い出し、結局ビートルズにチャレンジすることになりました。練習は、週に1回で、内輪の発表日を幾つか設定し演奏会をしてきました。みなさん忙しい中時間をさいて聴きにきてくださいました。我々も来年は還暦を迎える年齢となり上達の速度は非常にゆっくりです。さらに週1回の練習は、練習時間よりもその後の飲み会の時間が長いという集まりでしたので、ようやく4年目にして他からのオファーがくるようになりました。今年は、納涼会に3回、砺波のコスモスウォッキング会場での演奏をさせていただきました。現在、演奏できるビートルズの曲目も30曲ぐらいとなり、矢沢永吉、加山雄三並びに日本の最近の曲も少しできます。

我々の主催するコンサートも年に3～4回行っており、最近では、内輪だけでなく一般の方も懐かしいビートルズを聴きに来ていただけたようになりました。また私は、皆様の中で詳しい方もおられると思いますがP A (Public Address) をしています。これは、演奏の音づくりと言えば良いのでしょうか、バンドのボーカルや演奏を聴衆の皆さんに心地よく聞いていただけるようにすることです。これも自前で行っています。したがってアンプ、ミキサー、イコライザー、マイク、スピーカー、モニターなどすべて揃え設定しています。そこがまた面白いところで私は非常に興味があり時間があればあれやこれやと考えて少しでも良い音にならないかと取り組んでおります。

次回は12月9日(日)の17時から砺波文化会館多目的ホールでのコンサートを予定しております。お時間が空いておられましたら是非足を運んでみてください。ちなみに会費は3000円での飲み放題、食べ放題です！



新入会員紹介

市立砺波総合病院 東洋医学科

古 谷 陽 一

「新任の医局長です」

こんにちは。

平成24年7月から医局長を拝命しました古谷陽一です。

東洋医学科という超マイナー科で力不足かもしれません、病院と医院の架け橋となるよう努力しますので、皆さまご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひいたします。

今回は簡単に自己紹介をさせて頂きます。

私は平成8年富山医薬大卒で、今年で16年目になります。育ちは福岡県北九州市で、高校生まで過ごし、大学では東西医学の両方を学びたいと思い医薬大を受験しました。以来、富山の地にお世話になっており、かれこれ20年以上暮らしています。砺波とも縁があって、平成14年から2年間当院で勤務していました。その後大学で研究となりましたが、どういうめぐり合わせか平成21年4月から再び帰ってくることができ、喜んで着任しました。当院には大学の同級生の稻邑先生（消化器科）と梅村先生（脳外科）もおられ、二人にはいつも助けてもらっています。

また開業の先生方には外来診療でいつもお世話になっており、本当に感謝しております。（伏木弘先生はスキー部の大先輩、津田恵先生も大学の同級生です。）今回の就任を機会に医師会にも入会しましたので、忘年会などで皆さまにお会いできるのを楽しみにしております。

[追伸]

趣味は写真です。腕前はまだまだですので、どなたか詳しい方がおられましたら、ご指導頂ければ幸いです。

(写真：小学5年生の息子と、雄山頂上です)



市立砺波総合病院 産婦人科

藤 田 欣 子

長らく東京で働いていましたが、しばらくぶりに故郷に戻ってまいりました。高岡市が出身で今は砺波市に家族と住んでおります。

平成9年に北海道大学を卒業したのち、金沢大学の産婦人科学教室に入局いたしました。その後石川、福井、東京と関連病院を巡り、直近は体外受精専門クリニックで5年ほど勤めていましたので、今回の里帰りで初めて富山県で働くことになった次第です。

読書が好きで子供を寝かせてから本を読むのが近頃の楽しみです。最近読んだお気に入りは、「珍獣の医学」です。現役の獣医師が執筆されたもので、色々な動物、カメやアマガエルまで手術する内容が写真入りで描かれています。

ヒト一種を扱う医師と違い、多種多様の動物を自らが創意工夫して、治療を行っているそうです。その情熱に同じ医療者として頭の下がる思いがします。

私は現在、砺波総合病院で非常勤として働いています。

不妊治療が専門ですので、お気軽にご相談下さい。



砺波医師会誌 第198号

編集後記

杏和会の皆様いかがお過ごしでしょうか。そろそろ白いものが降る季節になり、いつもの1ヶ月には変わりはないはずなのに、気ぜわしい毎日をお過ごしのことと思います。

やっと冬の号をお届けできてほっとしております。今回も力作ぞろいでお楽しみいただけたかと思います。特に藤井正成先生からは長文になるがよろしいかと事前にお知らせをいただきましたが、特に決まりもなくぜひお願ひしますとお答えしました。ちょうど中国の領海侵犯が頻発し、ネット上では中国との戦争の議論までまきあがっているころでしたので、タイムリーな投稿としてお願ひしました。なんとなく最近ニュースにも出なくなりました。しかし、中国の領海侵犯は続いているが、中国もアメリカとはさすがに事を構えたくない様子で昔も今も日本はアメリカ様に守られ、独立国の定義は何なのか疑問に思うこともありますが編集後記にはなじまないのでこのあたりで終わりにします。

さて、日本でもやっとamazon（これもアメリカ）のKindleが発売になり、アップルも対抗すべく、ジョブスがやりたくないと言っていたiPad miniを発売して7インチのタブレット市場に参入し、Windows 8、グーグルのネクサスと混戦模様になってきています。これほど端末が安く手に入る状態となればこの杏和会よりもこれまでの文章を電子化し、新たに発行する便りも電子化するのが今後の流れかなと思っていますが、皆さんのご意見をうかがいながら、象の歩みで進めていこうと思っています。

編集長 網谷 茂樹

〔広報委員〕 山田 泰士、藤井 正則、柳下 肇、網谷 茂樹